

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100500
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 谷山中央
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央二丁目609番地1 (電話) 099-268-1765
自己評価作成日	令和6年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の明るい雰囲気と毎日の手作りの食事が特色。支援の方向性としてご利用者様の残存機能を生かした自立支援を心掛け、必要以上に介入をしないよう日々意識し、GHで暮らしている利用者方の可能な限り自立した生活のお邪魔にならないことを主として生活支援に取り組んでいます。運営推進会議は本年度はコロナ禍のため対面での開催はできておりませんが地域やご家族とは個別にGHの状況を報告行って運営へのご理解に努めております。毎日買い出しに出ることで季節の旬の食材を様々な形で提供できており、内容多彩な食卓となっており好評を得ております。緊急時には連携機関である田上記念病院のホットライン対応、また医療連携行っている訪問看護ステーションと連携、指示を仰ぐ体制ができており、訪問看護は定期、週1回の訪問の協力もある。ご利用者様の体調不良時にはご家族等も協力いただきながら医療ニーズへの迅速な初期対応支援が円滑にできてます。ご家族方には入居時から懇切丁寧にGHは利用者方にとって自宅であることをご理解いただけるよう努めており、自宅に家族の出入りがないことは物悲しいことであるもご理解いただくなかで、GHとご利用者への関わる機会を意識いただけるようにコロナ禍のなかにあっても日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は住宅街に位置しスーパーマーケットや商店等もあり、利便性もよく、食材の買い出しや街路樹の桜で花見も楽しめる環境である。
- ・コロナ感染症5類移行後、感染対策を徹底し、高校の介護実習生を受け入れている。家族の要望を反映させ、屋外や玄関先での対面面会に移行し、馴染みの人との関係が途切れない支援をしている。
- ・かかりつけ医の希望を聞き、入所前からの継続支援で関係性を築きながら2週間に1回の訪問診療、協力医療機関への定期受診を職員同伴で支援している。また、24時間医療連携体制で週1回の訪問看護による健康管理で適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・身体拘束廃止委員会や虐待委員会を中心に内部研修で資料を提示し、身体拘束の3原則や虐待の5原則について研鑽している。
- ・ほのぼのとした雰囲気の中で、職員同士も仲がよく、利用者に寄り添い、コミュニケーションを大切しながら、利用者の特性を把握し関わっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて1F2Fその日の勤務者全員で理念を唱和している。日頃より理念の唱和を通して理念共有、ケアに反映させられるよう努めている	理念はパンフレットに掲載し、各フロアに掲示している。毎日、朝礼時に勤務者全員で理念を唱和し、共有してケア実践している。日々、各自が振り返り、次のケア実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事、地域交流も中止になっていたが、近隣の公園へ行事での外出支援行ったり、近隣を散歩することで地域を意識した取り組み行っている	町内会に加入し民生委員や地域包括支援センターの職員等から地域情報を得ているが自粛中である。感染対策を徹底し高校の介護実習生の受け入れをしている。食材の買い物や散歩時に言葉を交わし日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者やご家族からの相談に随時応じる形で入居、非入居問わず認知症等もしくは施設検討などの情報提供などを提供する等にて地域貢献に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから広報誌・お便りを家族に発送し行事の様子やホームの近況等を報告している。コロナ禍後であるが推進会議開催雑賀しており様々意見交換を行っている	会議は書面や対面での会議を実施し、入居者状況・活動内容を報告し、消防署立会の訓練での助言の確認や意見交換を行って情報共有している。事業所を知って貰う発信としてクラブ活動を考案している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所、生活保護課担当等必要時連携し、相談を兼ねてご指導いただいたり、困難時を解決にむけて解決できるよう努めている。介護保険上の手続き等なども施設として支援行っており、窓口とも連携している	直接窓口に出かけ申請や更新・書類等を提出し相談事も助言を貰っている。生活保護課からの年1回の訪問があり、利用者と面談や電話報告し情報共有している。介護相談員の受け入れ予定である。市主催の研修にオンラインで参加し職員に伝達している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各職員が身体拘束の弊害を理解したうえで身体拘束のないケアに取り組んでいる。	年3回内部研修で資料を提示し身体拘束や虐待防止について学んでいる。日々の関わりで「ちょっと待って」等の不適切言葉が聞かれたら個別で指導し身体拘束のないケアをしている。日中の玄関施錠はせず声をかけあい、ウロウロする行動等が見られる場合、目的を聞いて一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について各職員が内部研修などにて学び、虐待をしないという意識をもって虐待防止に努め、日々ケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護、また保佐人などの制度活用などGHでの関わりのある権利擁護の事例のなかで、権利擁護制度や理念などの情報を共有している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に利用者の立場にたち十分な説明をしている。不安や疑問点は時間をとって丁寧に説明している。その中で不足が生じていないか個々の立場に立って確認しながら健康状態など家族に定期的に報告行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	感染対策を講じながらはあるがご家族の訪問時や必要時にはお手紙などで近況報告などを共有しながら様々な要望(昨今では面会等の要望多い)に柔軟に個別対応図っている	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは訪問時や電話・必要時には手紙で近況を説明している。2ヶ月に1回の便りで写真添付と担当者が一筆し郵送報告し意見等が言える機会を設けている。要望を反映し玄関先や屋外での対面面会に移行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の提案や意見などは各階ミーティングの際に十分伺うように努め、反映するように心掛けている。個別での相談時にも適時対応行っている	管理者は各フロアでのミーティングや申し送り・日々の関わりで「ちょっといいですか」と職員に声かけし意見等が言いやすい環境作りをしている。必要時は個人面談や相談があれば対応している。褥瘡悪化の介護ケアについて全員が理解し共有してケア実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人とも協働しながら働きやすい職場環境作りに努めている。給与水準や有給消化なども時代にあわせて法人と可能な限り適応できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の専門性の把握、経験や能力などを把握しながら一律の教育ではなく、各個人の状況にあわせて個性を生かして成長頂ける様配慮しつつ支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHと相互交流のなかで様々な情報の交換ができています。推進会議にて長寿あんしん相談センターや民生員、地域議員等とも意見交換できている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に利用開始にあたり十分な説明行い、本人、ご家族が納得のいく形での入居にいたるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの人生観を支える思いでお互いが共同生活を行いながら、和やかな雰囲気の中で率直なご意見いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHはご家族の協力のもと利用者方が自宅として生活していく場であることを懇意に説明行い、面会、訪問へのご理解・ご協力へとつなげている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の宗教、家族間、友達などの生活歴などの情報から広く考慮したなかでGHにて本人らしい『在宅』生活で在るよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでの席も配置行ったり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に日々職員間で情報共有しながら努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって身近な方々はいつでも気軽に来訪いただける様努めているがコロナ禍の影響で面会は窓越しの対応時もあるが家族の了解を得ながら縁遠くならないように関係が継続されるよう支援している。	家族や友人の面会は玄関先や屋外での対応である。関係が途切れないように、電話や手紙の取次支援やホーム便りで利用者の状況を報告している。2ヶ月に1回馴染みの訪問理美容で整髪支援し、定期受診時に見慣れた景色を楽しめるようドライブ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでも関係性の変化など時には席をかえ環境変化したり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の意向にも配慮行いながら随時相談支援に努めている。利用後の相談も対応しており、切れ目のない相談対応行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望や思いを傾聴し、意向に沿えるよう努めている。困難な場合には家族にも支援をお願いし、本人と家族の意向や希望が把握されるように職員で共有している	日常的な関わりの中で、特に食後、お茶やレクリエーション時、就寝前の時間帯等に思いや意向を聞いている。困難な場合は顔の表情・目の動き・手の動き等を家族や職員間で話し合い、思いに寄り添う支援をしている。介護記録に記載し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係各位からも情報収集に努め、生活歴等の確認を行うなかで本人の暮らしてきた環境や在宅環境に近い暮らしの提供ができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態をよく観察し、できること、もっている残存機能に着目し自立支援に向けた取り組みを意識、行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告取り合い、連絡相談しながらカンファレンスし、その時々に応じて介護計画を作成している	本人・家族の意見や要望、主治医や訪問看護師の意見、職員間のカンファレンス等を参考に担当者会議で意見交換し介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、見直しもしている。状況変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を集め、ケアの方向性がケアマネの画一的なものとならないように日々利用者方の状態の情報把握を職員方と一緒に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	トップダウンではなく新旧職員方からの積極的なアプローチを大事にしながらバランスをもって計画に反映していくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と有効的な活用方法を随時考慮している。地域実情に応じての地域の一員としての暮らしが確保できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援、訪問診療の往診にも対応している。急変時にも対応に取り組んでいる。家族にも支援求めていくこともあるがその限りではなく柔軟に支援している	入居時に希望を聞き、入所前のかかりつけ医の受診を支援している。家族の支援で継続支援を、訪問診療や協力医療機関への月1回の定期受診は職員同伴で支援している。訪問看護ステーションとオンコールの24時間医療連携体制や週1回の訪問看護で健康チェックし適切な医療が受けられるよう支援している。結果は電話や手紙で家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の医療相談を受けて連携している。協力機関の田上記念病院の外来とも利用者の状況を報告、相談行い、早期受診対応、受け入れ対応の連携をスマートに執り行えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携機関との連携、また入院先となった病院との連携を図り、可能な限りGHにて生活継続できる形を求めている連携に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族も含めて重度化、終末期について説明し、かかりつけ医、家族、訪問看護等で協議し方針を共有している。	入居時、マニュアルに基づいて説明し、同意書を貰っている。重度化した場合、状況に応じて管理者や主治医から状態を説明し、家族の意向を確認し医療依存度が高い場合、主治医と相談し入院の事もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携機関である田上記念病院のホットラインと訪問看護のオンコールを利用し夜間でも相談できるバックアップ体制ができている。マニュアル完備、また管理者への迅速な報告を周知し迅速な対応に動けるよう組織として取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等にて消防隊とも連携している。食料備蓄も日常的な買い出しにて滞りなく備蓄がある。今後は地域との災害協力構築を図っていきたい。	年2回昼夜想定消防署立会と自主訓練をしている。消防署立会では初期消火・避難誘導訓練を実施し講話を聞き、人命救助第一優先で対応することを確認している。自主訓練を地震・火災発生で通報・初期消火・避難誘導訓練を業者参加で実施し、情報共有している。避難場所を駐車場と2階非常階段踊り場としている。防災機器の点検を業者依頼で実施している。備蓄は水・米・味噌・カップラーメン等の食料品とカセットコンロ・懐中電灯等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と傾聴を大事に各利用者様、一人一人の人格や性格、個人情報等を重視した認知症ケアに努めている	事業所のケアミーティングで個々の特性を話し合い、排泄や入浴時は声かけやドアの開閉等、羞恥心に配慮した関わりをしている。入室時のノックや苗字や名前で声かけしている。更衣時の衣類は選択して自己決定できるよう環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重して、自己決定の難しい利用者に関してはそのご家族と話し合いながら可能な限り本人の思いをくみ取るように支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	けして押し付けるケアになることのないように本人のペースに重きをおいて、見守り重視のケアに努めている。また在宅であること意識し必要以上の介入は避けるように意識して支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日常的に使用するコップなど、小さな持ち物などから彩や個性がみられるよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話より個々の好きなものを把握したり、可能な限り献立に取り入れるようにしている	好みを聞き献立作成し、旬の物を使って調理している。個々に応じて食べやすい食形態で提供している。行事食のおせちは盛り付けて、ちらし寿司とお吸い物、恵方巻き、彼岸団子等を手作りで食べるのが楽しみとなっている。誕生日は好きなものを聞いて寿司やハンバーグ・デザート等を提供している。駐車場でバーベキューも楽しんでいる。下膳や台拭きや後片付けを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体調不良なども考慮しながら日々必要量の確保ができているから細かく確認行っている。また1日の総体としての食事量に着目しながら無理強いない食事支援も意識行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り本人の自力による支援に努め、介入は少なくするよう意識行っている。個々に応じて舌ブラシ使用、介助も行いながら清潔な口腔ケアに取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で排泄できる人の見守りと介助が必要な人の排泄を把握しチェック行っている。できるだけ自立にむけ取り組んでいる。できるだけ自然な排泄ができるよう食材を工夫するなどしている	排泄チェック表で排泄パターンや利用者の行動特性を把握し、時間帯やそわそわする動作等があれば、声かけしトイレ誘導で排泄支援している。排泄用品は主にリハビリパンツと尿取りパットを使用し夜間のポータブルトイレ使用やおむつ交換、状況に応じて声かけ誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜勤帯、日勤帯が共に日々のバイタル表にて確認有無を申し送りし、便の状況などは主治医へと受診時に細かく報告行い、内服薬調整も積極的に執り行い、変化する状況に対応行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者本位で入浴の声掛けや本人の希望にあわせて支援を行うようにしている。拒否がみられることもほとんどなく支援できている	基本的に週3回、午前中支援で浴槽に入る利用者は少なく、シャワー浴支援である。時間帯・順番・湯温等、希望に応じて調整している。スムーズな声掛けで入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、体調にあわせて座位や臥床など適切な介入行っている。不眠がみられる際にはお茶付き添いや声掛けで、本人に安心して入眠いただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には必ず日付、朝晩の確認、本人の名前の読み上げ行ってから服薬支援行っている。状態悪化の際にも内服薬の副作用疑い確認も行っており、内服薬への理解への意識つけてきている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶当番、洗濯物干し、野菜の皮むき、台ふきなど各人の生活歴や能力にあった家事参加促すことで生活に張り小さな役割ができるよう支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の変化に応じて天候やその時の入居者の体調を把握しただけ希望にそった外出、日光浴など外にでる支援に努めている。気候の良い時期にはお花見やコスモス見学、施設裏でのバーベキューなども行っている	年間行事計画を作成している。季節に応じて慈眼寺公園のコスモス見物や街路樹の桜の花見を楽しんだり、定期受診後のドライブで馴染みの景色や季節の花を見て楽しんでいる。日常的に天気の良い日は散歩や日光浴・外気浴等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力と家族の意向も確認行いながら可能な限りの自己管理支援に考慮行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ハガキが届いたら本人にお渡しし、読んでいただき、すべて保存している。電話希望が発生したらご家族への電話連絡～本人との会話支援行っている。携帯電話使用支援も行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当による季節の飾りつけ、季節を感じる空間作りにつとめており、視覚的に季節を感じていただけるように努めている。簡易的な職員の作成物を飾ったり、一緒に飾ったりも行っている。感染対策継続のため適温保ちながらの換気も行っている	ホールに加湿器付き空気清浄機を配置し、採光は遮光カーテンで調整し、温湿度計で確認しながら、エアコンで過ごしやすい環境作りをしている。テーブルと椅子・テレビ・ソファ・観葉植物・季節感のある飾り物・折り紙作品・塗り絵等の作品を飾り、それぞれが自由に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席順は随時利用者方の関係性に最大限に考慮し、適時席変更も取り入れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物を持ち込んでいただき、本人が安心できる居住空間作りに努めている。また換気に気をつけて過ごしていただくよう心掛けている	居室は木製のベッド・洗面台・引き出しタイプの収納棚・エアコンが設置してある。持ち込みとして使い慣れた衣類や寝具類・テレビ・ソファ・家族写真を飾り、ファイルで保存した塗り絵もあり、それぞれが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも本人の動線を利用した箇所を利用して本人が迷わないように考慮した誘導を行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない